

一九五一年

千曲會報

第四二號

昭和二十六年三月 日発行
信州大学織維学部内
編輯人 田中 亮 平
印刷人 上田市原町 正
印刷所 上田市原町
信大織維学部内
發行所 社団法人千曲会

信大開學式舉行さる

信州大学開學式は昨秋十月三十日午前十一時より教育学部松本分校において盛大に挙行された。
式は國歌齊唱に始まり高橋学長の式辭朗誦、横田事務局長の設立經過報告があつて後祝辭に移つた。文部大臣祝辭は單科昇格をめぐつて当学部とも懇の深い御本事弘次官が代讀し、続いて国立大学長を代表して京都大学長馬場三郎氏が本学は勉學と思索に絶好の環境にあることを説いて學生の奮起を促し、次いで長野縣知事林虎雄氏立つて教育縣信州における唯一の大学たる本学育成に出来る限りの援助を惜しまざる旨を約したほか、松島縣教育委員代表、片桐縣會議長、筒井松本市市長等來賓各位の心からの祝詞があつた。また各大学長初め關係各方面から寄せられた祝電祝文は五十通余の多きに達しその披露も行はれ一時間半にわたつた式を無事終了した。

猶当日の出席者は文部省關係三名国立大学長十六名高等學校長十六名縣内市町村長二百余名、他に学内職員學生約千名であつたが、來賓のうち

には学長候補に上つて田宮雄氏務台理作氏や前文相下條康慶氏京大瀧川幸辰教授の顔も見られた。本学部からも伊藤学部長以下職員多数が臨席した。
因に本学はわが上田織維專門學校・松本高等學校・長野師範學校と青年師範學校・松

千曲會理事長就任挨拶

去る十一月十九日第十一回千曲會總會に於て本會理事に私共が選任せられました。甚だ不敏にして其の器でないと思存しますが、諒察事情を拜承して新たな使命と責任を感じ取て御受け致しました。足らざる所は御指導御鞭撻の程を御願ひ申し上げます。
顧るに前理事長中沢忠氏を中心とする役員諸君は、母校に協力して昇格の運動に挺身され、壯大なる学部本館を建設し、母校四十周年に當り信州大学へ寄贈せられました事は各位の御承知の通りであります。
又千曲會そのものに対しては別所寮、及理髮部を創立し

て厚生施設とされた事等、数々の偉業を成し千曲會の活動に一段の進展を示されました事は、悉く前理事長始め役員諸君の努力の賜と存じ、會員一同と深く感謝する所であります。
然しながら千曲會は今や三千有余の會員を有する膨大な組織体となり、業務中心であつたものが紡織、化学、農業とその活動の分野は拡大し、嗣へ二年後には学部卒業生を迎へる事になりました。従つて千曲會のあり方も当然一新する必要があるべき筈であります。本會は早急に調査委員會を設け、具體的に研究し千曲會の將來を謀らざるより深

原稿募集

本會報の使命を充分に發揮いたし度いと思ひます。皆様方の御希望、御意見、及論議、隨想等多數御投稿下さる様御願ひ致します。

期するものであります。隨後インフレの余波は本會財政に痛く影響し、會費の徵集状況の如きは御多聞に洩れず、甚だ遺憾と申す外ありません。集金出来ぬから會費を出さない、連絡がないから會費を出さない、會費を出すのが面倒だと云ふような方が多いらしいのです。是れから本會は支會と連絡を密にし、集金に一層努力すると共に、別途

本會維持のために篤志により會員との連絡を計る等、本會の使命を果し度い念願を持つて歸ります。
最後に母校即本学部と本會との關係でありますが、専門學校であらうと、大学の学部であらうと、依然として表裏一体、学部の後援団体として千曲會の使命は一層重きを感じる次第であつて、些かの矛盾も不純もあり得ないのでありますから、有力なる各位に於かれては関心を新たにせられ、本学部の爲、本會の爲御盡力あらん事を切に御願ひ申上げる次第であります。
昭和二十五年十二月
理事 林 貞三
理事 一 同

日本術学会議員当選御挨拶

旧曆十二月十日を期して行われた日本術学会議員の第二回選挙に際しては、二百数十名の同窓生中の有識者各位は勿論、其他千曲會々員有志の絶大なる御支援の結果、御座ることを出来ましたことは、誠に感謝の至りたえません。その節は多数の同窓各位から御鄭重なる御祝詞と激励の御言葉とをたまわり、唯々感激の外御座りません。
私事元來淺學非才、到底その器ではありませんが、同窓各位の倍旧の御高趾を載せ、過去二カ年の僅かの経験を生

かして我國科学振興の爲に、微力を盡し度いと存じますから、今後とも宜敷御後援と御鞭撻を御願ひ申上ります。
今回の選挙の結果、會員総数二一〇名中の過半数が、新議員にかわり、去一月二十日から三日間、第八回總會が上野公園の日本術学会議で行われました。
その結果、會長龜山博士、副會長として我妻博士(人文科學)、茅博士(自然科学)を選出し、私共の属する第六部(農學)の部長としては平塚英吉博士、副部長として木原均博士が選挙されました。

我學術會議の事業を遂行するために設けられた廿有余の常置及臨時委員會に就ては、新に再檢討されることになりましたが、とりあえず左記の委員會だけは引つゞき委員の顔振を新にして繼續することを申合せました。
選挙管理會、連絡委員會、學問思想の自由保障委員會、ユネスコ委員會、科学知識普及促進委員會、研究費予算委員會、研究費配分委員會、研究費表委員會、勞働情報委員會、研究公務員に關する委員會、大学院及学位の委員會、科學者の生活擁護委員會等。
尙之等の委員會の外各研究連絡委員會に就ては之を繼續することにし、更に來る昭和二十六年度中に海外の國際學會に派遣せらるべき學者の候補者も決定された。この内特に本学部職員中八木誠政博士は、來る八月十七日から全二十四日迄和蘭國アムステルダムに開催される第九回國際昆虫學會に送られる四名の日本代表者の候補者中に加えられることになりました。

尙私は前掲の各委員會中特にユネスコ委員會の委員として末席を汚して、やがて我國が正式にユネスコに参加する準備運動を全國的に展開することになると存じますが、同窓各位に於かれても一層の御後援を仰ぎ度う存じます。
先は右当選の御禮に添えて日本術學會議の近況の概要を御報告申上りました。
(昭和二十六年二月一日)

母校便り

日本昆虫學會第十回大會
母校で開催される

日本昆虫學會第十回大會は、本學部八木教授を大会委員長として十月十四日より十六日まで三日間にわたり開かれ、十四日及び十五日の午前中に五二題の研究発表と、十五日の午後五題の特別講演がなされ、更に十六日には菅平エクスカーションが行われた。同學會の大会が上田の如き辺鄙な所で催されたのは前例の無い事であるにも拘らず、北は北海道から南は九州まで昆虫學界の泰斗、錫木外政雄、江崎梯三、内田登一、素木得

校友會誌「常陸」

特別記念増刊號發行
學友會文藝班は、本年三月專門學校制度廢止を記念し併せて針塚先生追悼記念大學昇格記念の三大意義をもち、學園内外よりの投稿を仰ぎ、「上田地方の商工業觀光地案内」「學園の回顧と將來への希望を語る座談會」を特集とし、寛いだ氣持で學校の様子を知つていただくの標編集して發行しました。
堂々菊判四百頁、寫眞四枚、表紙は原色刷、價格は一部二百円（送料共）です。申込先 信州大學繊維學部文藝班宛御希望の方は至急御申込下さい。

的をもつて今年度より本學部に蚕糸実科が設置された。蚕糸実科は養蚕及製糸の二コースに区分して教育が行われる。尙その募集要項は次の如くである。

一、募集人員

養蚕コース 二十名
製糸コース 二十名

二、修業年限 一カ年

三、入學資格
新制高等学校を卒業した者、並に新制高等学校を卒業した者と同等の学力ありと認められた者。

四、入學試験科目
1. 学力検査
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

2. 身体検査
五、出願期日
自昭和廿六年三月廿一日至四月七日

六、入學試験日 昭和二十六年四月十、十一日

七、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

八、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

九、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十一、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十二、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十三、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十四、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十五、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十六、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十七、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十八、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

十九、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

二十、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

二十一、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

二十二、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

二十三、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

二十四、入學試験科目
國語（作文を含む）
理科 物理、化學、生物、地學の四科
目中より一科目を選択する。

信州大學繊維學部教授
農博 萩原清治氏
農博 荒瀬正平氏
農博 末次幸雄氏

新卒業生の就職概況

母校の就職係が昨年五月職業安定法に基いて信大繊維學部職業斡旋部として着立して以來九月月になり、その間の取扱延人員は約三〇〇名に及んで居ります。この内六五％は新卒で残り三五％が旧卒関係であります。尙新卒、即ちこの三月の卒業生就職状況はどうかと申しますと、朝鮮問題に端を発しての持滞や色々の關係から繊維業界は昨年からは思はざる活況を呈して居ります。これは御承知の通りでありまして、この状況はおそらく今移十カ年位は続くものと予測せらるゝものがあります。又一面學制改革によつて出来た新制大學からは明年度卒業生が出ないこととなつて居る等の事由によつて、本年度卒業生の就職は昨年度に比し大分順調に進んで居ります。昨年未迄にその大部分が決定し、殊に紡織科に於ては、二の特殊事情の著しい外は全員の就職の会社々々決定を見て居ります。又養蚕、製糸の兩科も業界の好況につられ、大部分既に決定して居りますが、業界の好況に比し就職決定度が幾分鈍重なことは一昨年来の経済界微變の苦い経験から出た警戒氣味、堅実味等が

うかがわれ、蚕糸業界の爲祝福すべきことと思われ、既に相当数決定して居ります。こうして各料を眺めて來ますと、來る三月卒業期迄には一〇〇％に夫々の職場が決定され得るものと樂觀してよいでしょう。

それについても就職については毎年先輩諸兄の御援助御協力に依つても多大でありまして、この点幾重にも感謝申し上げる次第であります。尙近頃の就職職線の變り方について見ますと、民主主義的な考へ方と採用者側の経営本位の考へ方からして採用試験による成績主義を移行しつつありまして、各縣に同じような新制大學が出来るといふ卒業生が数多く出て來ることなどから今後どうした傾向は一層強くなることと思われ、それ、この線に添つて卒業期のみのお練香花火式の實力でなく、長く続く眞の實力をもつた卒業生を出すことに心掛かねばならぬと思われ、これ等のごも御含みの上今後共同の御援助御協力の程を御願ひ申上げます。

（職業斡旋部）

例年ない降雪と、スキーの大衆化にともない、本學部の菅平ヒュッテも今年は稀な活況を呈し、学生諸君の中には暮より年越しで山に籠つた者もあり、連日あふれる程の人氣だつた。

一泊八十円は他の旅館に比較して、三分の一の低廉さでスキー部学生諸君の體身的な努力に依りヒュッテも改造されて暖くなりスキーも多量に整備されたので、他の學部より恵まれた環境の下でスキーをエンジョイする事が出来た。又昨シーズンよりは全國の大學にも稀なスキー學校が土屋教官の手に依り設置され、本年度は

第一部 一月五日～一七日
第二部 一月一七日～一九日
第三部 一月廿一日～廿三日
の三回に亘つて体育の正課として開設され、大體に終了する事の出来たのは喜ばしい事であつた。此の間に本學部男女職員も相当登られて教授職員、学生間のうるはしい情景をゲレンデに散見された。多はスキー、夏は行樂に國立公園管の開發にも今更に増える事と思われ、幸に廣大な敷地を有するの更に優秀な施設を持つた美麗な宿舎を設立して、別寮と共に職員、学生、卒業生のより良いリクリエーションの場としてそれにふさわしい建築を希望する聲が高くなつて來て居る。

（職業斡旋部）

農林省蚕糸試験場技官
農博 針塚正樹氏
農博 針塚正樹氏
農博 針塚正樹氏

日本蚕糸学会中部支部
第二回研究発表会母校で開催

日本蚕糸学会中部支部第二回研究発表会は十一月十七日（日）に開かれ、第一会場（蚕に関する研究）二九題、第二会場（桑・製糸・蚕糸化學及び野蠶に関する研究）二八題、計五七題の研究発表がなされ、その中、特に母校並に同窓

的をもつて今年度より本學部に蚕糸実科が設置された。蚕糸実科は養蚕及製糸の二コースに区分して教育が行われる。尙その募集要項は次の如くである。

蠶絲實科設立

蚕糸に関する技術の速成教育を施し、蚕糸業に関する中堅の技術指導者を養成する目的を以て、本學部内に蠶絲實科を設立する事と決定された。この科は、養蚕、製糸、蚕糸化學、野蠶の四コースに分けられ、それぞれ三年間の修業年限を要する。入學資格は、新制高等学校を卒業した者、並に新制高等学校を卒業した者と同等の学力ありと認められた者である。入學試験科目は、学力検査（國語、理科、生物、地學の四科、目中より一科目を選択）、身体検査である。出願期日は、昭和二十六年三月廿一日から四月七日までである。入學試験日は、昭和二十六年四月十、十一日である。

本会 記事

本會第十一回 定期總會の報告

昨年十一月十九日、母校新館本館会議室に於いて本會第十一回定期總會が開催されました。前日の日本養蚕学会中部支会研究発表会開催に引続いての催しだけに予想に違わず出席者数は昨年に劣らず遠くは鹿兒島支会代議員を始め総數五十余名を数えました。中沢理事長の開会の辭に始まり名譽會長伊藤學部部長の挨拶に次いで野口理事の會務報告があつて、群馬支会代議員齋藤菊雄氏議長の下に例によつて議事に入りました。

左記の通り昭和二十四年度收支決算、昭和廿六年度收支予算及び基本財産の承認定款一部変更、賛助員推挙、役員改選顧問推戴並びに會費徵收等について議決されました午後五時半盛會裡に閉会されました閉会後終戦後始めての催しとして母校教職員を交へての盛大なる懇親會の催しがありました。

- 一、昭和二十四年度收支決算
- 1、収入
- 1、財産より生ずる収入 二、四四〇・〇〇
- 2、前年度繰越金 三、〇〇〇・〇〇
- 3、雑収入 八、七〇〇・〇〇
- 4、入会金 七、〇〇〇・〇〇
- 5、寄附金 一、〇〇〇・〇〇
- 6、合計 一三、〇〇〇・〇〇
- 2、支出
- 1、會議費 九、五〇〇・〇〇
- 2、事務所費 七、五〇〇・〇〇

- 三、基本財産
- 1、前年度繰越高 七、〇〇〇・〇〇
- 2、前年度収入 八、〇〇〇・〇〇
- 3、本年度収入 一、〇〇〇・〇〇
- 4、前年度繰越金 八、〇〇〇・〇〇
- 5、本年度繰越金 九、〇〇〇・〇〇
- 6、現在高 一、〇〇〇・〇〇
- 7、前年度繰越高 七、〇〇〇・〇〇
- 8、本年度繰越高 八、〇〇〇・〇〇
- 9、本年度収入 一、〇〇〇・〇〇
- 10、前年度繰越金 八、〇〇〇・〇〇
- 11、本年度繰越金 九、〇〇〇・〇〇
- 12、現在高 一、〇〇〇・〇〇
- 13、前年度繰越高 七、〇〇〇・〇〇
- 14、本年度繰越高 八、〇〇〇・〇〇
- 15、本年度収入 一、〇〇〇・〇〇
- 16、前年度繰越金 八、〇〇〇・〇〇
- 17、本年度繰越金 九、〇〇〇・〇〇
- 18、現在高 一、〇〇〇・〇〇

- 1、會議費 二、〇〇〇・〇〇
- 2、事務所費 一、〇〇〇・〇〇
- 3、基本財産造成費 一、〇〇〇・〇〇
- 4、會費納入交付金 一、〇〇〇・〇〇
- 5、研究費補助 一、〇〇〇・〇〇
- 6、予備費 一、〇〇〇・〇〇
- 7、合計 二、〇〇〇・〇〇

- 1、昭和二十六年年度收支決算
- 1、収入
- 1、財産より生ずる収入 三、七〇〇・〇〇
- 2、前年度繰越金 五、〇〇〇・〇〇
- 3、雑収入 一、〇〇〇・〇〇
- 4、入会金 一、〇〇〇・〇〇
- 5、寄附金 一、〇〇〇・〇〇
- 6、合計 一三、〇〇〇・〇〇
- 2、支出
- 1、會議費 二、〇〇〇・〇〇
- 2、事務所費 一、〇〇〇・〇〇
- 3、基本財産造成費 一、〇〇〇・〇〇
- 4、會費納入交付金 一、〇〇〇・〇〇
- 5、研究費補助 一、〇〇〇・〇〇
- 6、予備費 一、〇〇〇・〇〇
- 7、合計 二、〇〇〇・〇〇

差引現在高 六、七〇〇・〇〇
合計 一三、〇〇〇・〇〇
註：基本金は國庫債券、東京都債並びに銀行預金及び振替貯金として管理している。

- 四、定款の一部變更
- 本會定款中「上田織維専門學校」とあるは「信州大學織維学部」に改め四月一日より施行すること。
- 五、賛助員推挙
- 新任教授三浦乾太郎氏を本會賛助員に推挙すること。
- 六、新役員
- 理事長 林 貞三
理事 上野栄仁、萩原清治、倉沢美徳、窪田潤、小林進美、小宮山太助、田口亮平、富岡秀、中島兼清、野口新太郎、橋詰英雄、北條智正、宮城博
監事 猪城直一、笠原正己、高木三治、八木誠政、安川寛
評議員 隈沢泰造、石坂虎治郎、隈田武、岡部彌平、笠原義人、勝又慶夫、唐沢正平、川久保元、川船卓彌、合田信一、岸勝彌、北沢茂、小松忠一、藤口有三、佐藤一、清水良一、白沢幹、瀧沢芳樹、竹内孝三、野崎清、原相模、牧道男、町田博、富島重一、柳沢忠次、山岸實雄、湯原謙、和田晋

八、會費徵收
最近の會費納入状況は極めて不良でこの状況が続くならば會報の発行は勿論何んの事業も出来得ないことになりますので、これが最善の方法如何との本部提案に対し各支会より活潑なる意見の開陳あり結局各支会でも大いに協力、(支会で徵收した場合はその三割を支会に交付)することと理事者に於て善処することとなる。

庶務(野口新太郎) 坂口青三、関博夫、阿久津伊平、松原俊一
企画(中島兼清) 町田博、竹田寛、押金健吾
2、厚生部(山口定次郎)
山崎善徳、渡藤恒久、吉平福紀、徳永雄治、松崎裕、西山久雄、町田博(兼) 坂口青三(兼)
3、勤務部(萩原清治)

御田圭二、小林尚一、兒平文雄、清水猛、角田定青、沼茂、堀内浪
編纂部(田口亮平)
松尾卓見、中原武、池田忠夫、櫻井善雄、田中一行
會計部(窪田潤) 北條智正
白井美明、小山長雄、今井甲子男、田中茂光
註：括弧内は理事を示す。

『千曲會費』を至急 御納入下さい

千曲會の二十五年會計年度も残り少なくなりました。度、會費の納入が少なく本會の運営にも支障を來して、います。何卒至急お忘れの方は御納め願います。終戦後の物價高から本會会費も再三増額し左表の様に

種類	年度
入会金	二三年度 一〇〇〇円 二四年度 一〇〇〇円 二五年度 一〇〇〇円 二六年度 一〇〇〇円
進會員會費	五円 二〇〇円 四〇〇円

只今の會費二〇〇円は、以前の四円會費の五〇倍です、それに比べて物價は一五〇倍から二〇〇倍にもなっています。而も納入者が大變に減つてゐる爲に總額不足で會報の発行にも大変な苦勞をしております。又會報の発行にも行詰り、會員相互の意志疎通にも支障を來たしている状態です。會費の納入状態を見ますと、二四年度の一般會費收入、九万七千四百二十六円、入

た場合の二五年度會費總額は五九万二六四〇円と云う莫大なものです。
内訳 正會員二九一九名：五八三八〇〇円(一人當會費二二〇〇円) 進會員二二〇名：八八四〇〇円(一人當會費四〇〇円) 之に対し収入予算は四〇〇〇〇円としたので、それが実収が予算の半分です。

二六年度も會費收入を二六万円程見積つてありますが、やはり總額の約四〇%です。から會員諸兄の協力を仰つてこの最低見積額以上六〇一七〇%位迄の成果を得たいと思つています。
どうか先ず二五年度の會費お忘れの方は至急御納め願ひ、繞りて未納入を出來るだけ早くお願い致します。そして新年度に於て又是非催進なしに納入下さる御願ひ致します。本會へ上記規定の會費を納められてもその内三〇%は所属支会へ交附致しています。故支会発展の爲にも本會會費納入は重要な事柄です。

和田仙太郎先生逝かる

三十五年の久しきに亘り語学の教授と母校の発展のために盡された和田先生はかねて御郷里の福島縣若松市の自宅に御病臥中でありましたが昨年十一月三十日遂に逝去されました。寔に哀悼痛惜に堪えませぬ。

和田先生を偲びて

佐藤 利一

左記により弔慰金を募集し御遺族に贈呈致したいと思ひます。多数の御賛同を賜わり度く存じます。

記

- 一、金額多少を問はず。
- 一、期日昭和二十六年四月末日。
- 一、送金方法、この旨を明記し、千曲會振替口座東京四三三四一宛。

和田先生の略歴

明治三十六年 第一高等學校 佛文学科卒業
 明治四十三年七月 東京帝國大學文科大學佛蘭西文学科卒業
 明治四十三年十二月 上田蚕糸專門學校講師を嘱託
 明治四十四年十二月 同校教授に任ぜられる
 昭和三年三月 佛蘭西語及び語学教授研究の爲フランスへ留學せらる
 昭和五年一月 帰朝
 昭和十三年四月 願ひに依り本官を免ぜらる
 昭和十三年五月 上田蚕糸專門學校講師を嘱託さる
 昭和二十六年六月 願ひに依り講師職を解かる

忘れたる難き大戦末期のあわただしい夏の日の一時、和田先生は既に全生涯の精華を打込まれた専門學校と三十余年間住み馴れた懐しの上田市とに別れを告げて少年白虎隊で有名な郷里若松市へ引揚げるため御家族同伴上田駅頭に立たれた。途中の空襲に備えてゲートルに身を固めた先生の長軀は雄々しくも見えたが幾分面やつれて痛々しくも感ぜられた。群がる見送りの友人知巴教子等と例の特微ある詔語で如才なく挨拶をかかわり居られた其の音が今尚耳裏に残つて居る。然るに僅か数年後の昨年十一月圓らず先生は無常の風にさらわれてつしに他界へ旅立たれて了つた。思へば上田駅頭で互に別れを惜しんだあの生別が遂に死別を兼ねることになつたのは眞にくやしい極みである。嗚呼、浮世は夢か、夢が浮世か恰も夢地を辿る心地がする。僕は先生の同僚として又同輩人として尙或時は肩並の隣人として三十年以上親交を重ねて其の高潔な人格と親かな温情とに接して来たから思出は連綿として盡さず正に感慨無量である。

先生は美に清潔潔白な表裏のない稀に見る人格者で如何なる場合にも恒心を失わぬい監獄裏の土であつた、そして先生は純情其の極で行動されたから雅氣愛すべきものもあつた、例外はあつたが所謂才子肌の人や言動に表裏ある人は先生の最も好ましからぬ人物であつた、即ち先生には人によつて好厭の別が可なりはつきりして居たが先生を惹く云う人がなかつたのは人徳の然らしめる所であつた。先生の徳望を感へ高からしめたものは人情味、親切心、責任感等である。就中底知れぬ温い人情味と肉親も及ばぬ親切心が礎石となつて山よりも高い人望が築き上げられた。但し之には俊子賢夫人の内助の功も幸つて力があつた。又先生は一人格強い責任感の持主で職務に対しては飽く迄勤勉精励で最も信頼し得る人であつた。先生は剣道部の万年部長を勤めて居られたがあの熱心さは何人も到底追隨し得ない程度のものであつた。

本校の誇りとする傳統の校風は故針塚校長を始め斯様な先生方の人格の感化、訓育、努力等が直接又は間接に働いて長年月の間に育成されたものである。先生の趣味は謡曲、刀剣、書画、陶器、小石等なかなか多彩多岐の先生の居間は書齋であつた又藝術品の陳列室でもあつた。信州に因み果や、雲霧の絵や、松代城の陶器等は殊の外愛好されて居つた。

和田仙太郎先生

原田 親雄

先生は律義者の子沢山の類で三男四女の子嗣者で一頃は計九人の大世帯の慈父となり子煩悩な上に俊子夫人とは常に琴瑟相和し又御子賢夫人は非常に仲がよく終始一家團樂和氣満堂の樂しい生活を續けて居られた。先生は學校から釋られると先ず奥儀や子供縁を相手に敬談時余、其間盛んに冗談も云われ又、機智に富んだシャレも連發されて笑聲歇らざりしに屋外に洩れることとが常であつた。此等のお子後顧の憂いはなくなつて居る斯うした田舎な家庭の中核を成して居つた慈父の長逝は此等の方々には悲痛此の上もなげな事と察し心から同情する然し頓点を替へて卒直に申せば猶ほあるが綜合的に觀て先生は非常に幸福な方であり又最も有意義な價值ある生活で長い七十年の一生を全く無疵に過ごされた偉大な人格者であつたと僕は確信する。

先生は一代名は末代、亡き後々までも多くの人々に追慕崇敬される先生の光輝ある人格は必らず消えることなく何時の世迄も光り輝くであろう。終りに臨み先生の御冥福と御遺族の御繁榮とを祈りつゝ、ペンを擱く。

他藩の士の渴仰するところであつたときいて居ります。戊辰役金津藩散隊の後金津武士の多数が私の郷里高田へお預けの身で滞在し、(和田先生の父君も其一人であられたやに記憶す)多くの佳話を遺した私は幼時母から金津の土風につき多きを聞き少年時代は北海道根室の屯田兵村で暮したのであるが同村に典型的な金津武士櫻井氏(夫人は山川健次郎先生の姉)あり其高風に畏敬の念禁じ得ないものがありました。上京後は當時の大先輩長山川健次郎先生の風格を仰ぎ上田へ来て和田先生に於て小山川を見出した感に感じました。而して金津の土風の源泉を知りたいとの念を強く持つて居つたところ、はからず小冊子を得て略満足することが出来ました。金津の土風は山崎暗斎に培れたと知つたからです。則ち金津藩祖は山崎暗斎に藩士の教育を托したので暗斎は道場日進館を興し文武の修養を若侍に勧め其の綱領に次のものがある。

一、恥を知れ。
 一、女色に遊ばざれ。
 一、人に負けるな。
 此他尚一二項あつた様であるが失念したのは遺憾である。これ等綱領の実践から金津土風が生れたと肯かれます。和田先生の父方の祖父君は金津隨一の鎗術の名人で母方の祖父君は藩中第一の一刀流達人であられました。先生の驚異的な腕力烈々たる氣魄典型的古武士の風格は故なきにあらざと思われまふ。先生の學問も趣味も多方面に涉つて居りました。先生一流の何事にも

徹底せよば止まぬと云う性格の故に何れも素人の域を脱し殊んど堂に入つて居られまし

渡航ニユース

昭和二十五年秋渡米、断に帰國された方

至四回卒 野崎 清氏

(日本蚕種協同組合理事)

糸十三回卒 小平 光男氏

(通産省織絹局織絹出題)

糸十七回卒 矢野 榮輝氏

(片倉工業株式会社渉外課長)

○目下渡米中の方

糸十六回卒 小林 運美氏

(代議士)

○昭和二十六年二月二十日

出発される方

糸八回卒 鈴木 敦吾氏

(群馬畜産株式会社社長)

○昭和二十六年五月頃出発

予定の方

紡七回卒 安井 健一氏

(兼松羊毛工業株式会社)

○昭和二十六年八月頃和蘭

アムステルダム第九回

国際昆虫学会へ出発予定

の方

至三回卒 八木 誠政氏

(本学部教授)

○迎く渡米予定の方

紡十五回卒 川久保 元氏

(経済安定本部)

○近く渡印予定の方

紡七回卒 湯原 輝氏

(行先、マイソウル州チャ

ソナバトナスパン、シル

クミル、アソシエイショ

ン)

魚釣の名人でもあり又魚を愛する人でもあり散歩の途上水

和田先生の御趣味

須田圭二

和田先生の石に対する御趣味には敬服の外なかつた。臨

上野正美君助命減刑運動

母校昭和十八年卒業生上野

正美君には過般來大東亞戦争

職犯者として比島の獄舎に在

りお氣の毒乍ら絞首刑の宣告

を受け、処刑の日を待つばかり

の身であります。就ては今

回千曲會が主体となつて本格

的に助命減刑運動を展開する

ことになりました。時恰もダ

レスト使比島訪問や比島経済

便簡等來日の機会をもらえ

此の運動の達成を期したいと

思ひます。

上野君は中等学校専門學校

共に最優秀の成績で卒業し直

ちに農林省蚕糸局に奉職しま

したが従つて軍務に服し現在

て何事も研究されなかがほ

ぶつとする。

會費領收

(昭和二十六年一月現在)

昭和二十六年二月、上野正美君助命減刑期成會

會長 井上 柳梧

副會長 林 貞三

幹事 浦生 俊興

倉次 美徳

山口定次郎

入會金總額

若林鶴夫(壹元) 久保田康夫

壹(壹元) 水井壽(壹元) 相馬

実志男(壹元) 小畑徳(壹元)

吉沢英三(壹元) 船津貞平(壹元)

○牧野芳成(壹元) 池田達

男(紡元) 宮入昭一(化七)

都筑國彦(化八) 小池三男(化

八)

昭和二十五年會費總額二百圓

鶴田定平(壹元) 浦生俊興(壹

元) 矢沢茂登(壹元) 絹村

實(壹元) 倉沢美徳(壹元)

廣沢正平(壹元) 沢井壽夫(壹

元) 須田圭二(壹元) 佐藤良

太郎(壹元) 立岩英保(壹元)

八木誠政(壹元) 白沢幹(壹

元) 佐藤國一(壹元) 皆川二

郎(壹元) 丸山武夫(壹元)

齋藤菊雄(壹元) 上林多兵衛

(壹元) 小山二郎(壹元) 永

田平(壹元) 高橋記一(壹元)

田口富五郎(壹元) 勝又藤夫

(壹元) 竹内虎夫(壹元) 金

崎眞英(壹元) 北沢周一(壹

元) 米田俊雄(壹元) 清水衛

敏(壹元) 山口定次郎(壹元)

内川勇(壹元) 吉田隆雄(壹

元) 武木本治(壹元) 水野廣

御願察の上各位の絶大なる御

援助に預り度く折入つて懇願

申し上げます。

山本友之丞(壹元) 藤本

衛佐雄(壹元) 酒井嘉美(壹

元) 西沢重光(壹元) 田口亮

平(壹元) 野里秀直(壹元)

若林鶴夫(壹元) 今井武四(壹

元) 河野太郎(壹元) 町田博

元) 西沢良一(壹元) 市

瀬武壽(壹元) 前島正直(壹

元) 坂口育三(壹元) 山岸政

治(壹元) 伊藤幸男(壹元)

岡博夫(壹元) 秋山利夫(壹

元) 竹田寛(壹元) 内藤康三

(壹元) 山田次男(壹元) 小

山長雄(壹元) 副崎聖徳(壹

元) 松尾卓見(壹元) 田中光

雄(壹元) 堀内清(壹元) 片

山文(壹元) 大久保孝一(壹

元) 古平福紀(壹元) 小沢賢

治(壹元) 山中明(壹元) 三

宅武夫(壹元) 宮下豊次(壹

元) 桑島新一郎(壹元) 岩尾

今生(壹元) 清水猛(壹元)

江間正夫(壹元) 伊藤文雄(壹

元) 中原武(壹元) 岩谷鉄郎

(壹元) 宇治川喜平(壹元)

秋山二郎(壹元) 金井保(壹

元) 櫻井善雄(壹元) 田中一

行(壹元) 佐藤正(壹元) 押

金健吾(壹元) 田中康男(壹

元) 把田英司(壹元) 西山久

雄(壹元) 寺沢久夫(壹元)

中島敏夫(壹元) 有賀文雄(壹

元) 大箸政平(壹元) 林貞三

(壹元) 堀江尚(壹元) 高木

